

## 第5章 人々との交流

彦九郎と交流をもった人々は多岐に及び、日記に細かく記されています。公家・諸藩士・文人・儒学者・国学者・蘭学者などの知識人のほか、その土地の町人・商人・工人・農民などあらゆる階層にわたっています。彦九郎は、行く先々で次々と新たな交流を生み出していきました。

江戸では、蘭学者の前野良沢宅に寄寓し、深い関わりを持ち交流しています。このほか菅野綸斎・細井平洲・築次正・長久保赤水・大槻玄沢・岡田寒泉・服部栗斎・賀茂季鷹らと交流しています。

水戸では、立原翠軒・藤田幽谷・木村謙次らと、米沢では上杉鷹山・莅戸大華・神保綱忠、仙台で林子平と交流しています。

京では、白木屋主人大村彦太郎や公家の岩倉具選の宅に長く寄寓し、芝山持豊・高辻胤長・伏原宣條のほか、高芙蓉・池大雅・柴野栗山・股野玉川・蠣崎波響らと交流しています。

九州では、富田大鳳・樺島石梁・赤崎海門・藪孤山・脇愚山・広瀬淡窓らと交流しています。